作成日　２００７年０４月１１日
改定日(Ｒ－１)　２００７年０７月１２日

製品安全データーシート

１．製品及び会社情報

製品名	パンメイト S　(PAN MATE S)
会社名	日本エヌ・シー・エイチ株式会社 ナショナルケムサーチ事業部
住　　所	東京都町田市南成瀬 1-2-2 MS センタービル 5F
担当部署	管理・技術ｾﾝﾀｰ技術部
電話番号	0120-571511
整理番号	4790

２．危険有害性の要約

GHS 分類

急性毒性（経口）	区分 4
皮膚腐食性・刺激性	区分 1C
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	区分 1
生殖毒性	区分 2
特定標的臓器・全身毒性(単回)	区分 3(麻酔作用)
水生環境有害性(急性)	区分 3
水生環境有害性(慢性)	区分 3

GHS ラベル要素

危険

危険有害性情報

- 飲み込むと有害
- 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
- 重篤な眼への刺激
- 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
- 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- 呼吸器への刺激のおそれ、または眠気およびめまいのおそれ
- 水生生物に有害
- 長期的影響により水生生物に有害

注意書き

- 取扱説明書を入手し、安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- 保護手袋/衣類および保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 取り扱い後は手を良く洗うこと。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- 換気が十分でない場合は呼吸用保護具を着用すること。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 容器を密閉して換気の良いところに保管すること。
- 施錠して保管すること。
- 子供の手の届かないところに保管すること。

3．組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 ：混合物

化学名または一般名 ：空調凝縮水受皿 清浄化剤（タブレット）

成分名	質量%	官報整理番号	CAS No.	備考
無機アルカリ塩	30～40	非開示	非開示	既存化学物質である
その他非・陽イオン界面活性剤等	残分	非開示	非開示	構成成分はすべて既存化学物質である

4．応急措置

吸入した場合 ：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

皮膚(毛髪)に付着した場合 ：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。多量の水と石鹸で洗うこと。汚染した衣類は再使用する場合は洗濯すること。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当を受けること。

眼に入った場合 ：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。取り扱った後、手を洗うこと。

飲み込んだ場合 ：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状：眼：灼熱感。極端な暴露で角膜損傷とかすみを起こすことがある。皮膚：灼熱感。吸引：ミストは呼吸器を刺激。誤飲：胃腸を刺激し灼熱感を起こす可能性。

最も重要な兆候及び症状 ：データなし。

医師に対する特別注意事項 ：症状は遅れて発現することがあり、過剰に暴露した場合は、医学的な経過観察が必要である。

5．火災時の措置

消火剤 ：泡、炭酸ガス、粉末、水散布

遣ってはならない消火剤 :特になし。

特定の消火方法 ：消火活動を行う者に火災の場所と有害性を伝える。

消火を行う者の保護 ：消火作業では、自給式呼吸器を含む適切な保護具を使用する。本剤が保管されている室内の消火作業には加圧式の呼吸器を使用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項保護具及び緊急措置 ：密閉された場所では換気又は送気マスクを使用する。作業時には適切な保護具を使用する。

環境に対する注意事項 ：排水や水源に混入させない。

回収、中和、封じ込め及び浄化方法と機材 ：回収し適切な容器に入れ、再使用又は廃棄する。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 ：長時間作業にはゴム手袋を使用する。

局所排気装置・全体換気 ：密閉空間では局所排気装置等適切な排気装置を設置する。

注意事項 ：取扱う場合は換気の良い場所で使用する。

安全取扱い注意事項 :暴露防止のため、必要に応じて保護具を着用して作業を行う。製品ラベルの注意事項を守って取り扱う。

保管

技術的対策 ：保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

混触禁止物質 :「10. 安定性及び反応性」参照。

適切な保管条件 ：40℃以上の高温を避け、常温屋内で保管する。使用時以外は密栓をし、子供の手の届かない所に保管する。その他法令の定める所に従う。

避けるべき保管条件 ：包装、容器の規制はないが、保管時には製品の入っている容器から移し替えない。

８．暴露防止及び保護措置

許容濃度、管理濃度(職業的暴露限界値、生物学的限界値)

成分名	含有量 (質量%)	管理濃度 (安衛法)	許容濃度 (日本産業衛生学会)	ACGHIH-TLV (2001)	OSHA-PEL
無機アルカリ塩	30～40	未設定	未設定	2mg/m3	2mg/m3
その他非・陽イオン界面活性剤等	残分	未設定	未設定	未設定	未設定

設備対策　：特別な設備は必要ないが、通風換気を必要とする。(通常は全体換気で十分である。)

保護具

呼吸器用の保護具　：通常必要なし。

手の保護具　：長期間/反復接触のある作業ではゴム手袋。

眼の保護具　：通常必要なし。

皮膚及び身体の保護具　：通常必要なし。

その他法令の定める所に従う。

９．物理的及び化学的性質

外観　：淡緑色タブレット
臭い　：ラベンダー臭
ｐＨ(100%)　：１１．５ (@１%)
融点(℃)　：データなし
沸点(℃)　：データなし
引火点 (℃)　：不燃性
爆発限界(%)　：下限：データなし　上限：データなし
蒸気圧(20℃-kPa)　：データなし
蒸気密度(AIR=1)　：データなし
比重　：１．４
溶解性　：水に徐々に溶解
オクタノール/水分配係数：データなし
自然発火温度　：データなし
分解温度(℃)　：データなし
粘性　：固体
揮発分(重量%)　：無視少
臭いの閾値　：データなし
蒸発速度(酢酸ﾌﾞﾁﾙ=1)　：データなし
燃焼性(固体、ガス)　：燃焼性なし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性　：安定
危険有害反応性の可能性　：なし
避けるべき条件　：加熱、スパーク、裸火
混触危険物質　：強酸化剤(塩素系漂白剤や過酸化水素など)、還元剤(チオ硫酸ナトリウムや酸や塩基など)。 アルミニウム(真鍮、青銅、クロム、マグネシウム、スズ、亜鉛、および合金)などの長時間の接触は、水素ガスの生成を引き起こす可能性がある。
危険有害な分解生成物　：燃焼により酸化ケイ素、一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性

経口　：各成分のLD50から、ATEmix=1,910mg/kgが算出される(GHS判定基準による)。これにより混合物として区分４とした。飲み込むと有害。
経皮　：情報がなく分類できない。
吸入(ガス)　：情報がなく分類できない。
吸入(蒸気)　：情報がなく分類できない。
吸入(ミスト)　：情報がなく分類できない。
皮膚腐食性/刺激性　：各成分の分類結果から混合物として区分1Cとした。重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
：各成分の分類結果から混合物として区分2Aとした。重篤な眼への刺激。
呼吸器感作性または皮膚感作性

：各成分の分類結果から混合物として区分１とした。吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ。

生殖細胞変異原性　：情報がなく分類できない。

発がん性　：情報がなく分類できない。

生殖毒性　：各成分の分類結果から混合物として区分２とした。生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。

特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)

：各成分の分類結果から混合物として区分 3(麻酔作用)とした。呼吸器への刺激のおそれ、または眠気及びめまいのおそれ

特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)

：情報がなく分類できない。

吸引性呼吸器有害性　：情報がなく分類できない。

12. 環境影響情報

生体毒性　：データなし

残留性/分解性　：データなし

生物蓄積性　：データなし

土壌中の移動度　：データなし

他の有害影響　：データなし

13. 廃棄上の注意

・下水、環境中にそのまま放出しない。

・産業廃棄物処理業者に委託する。

・その他公害、廃棄物関連法規に準じて廃棄する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類　：該当なし

特別の安全対策

・７項、15 項の記載事項を参照のこと。

・輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。

・転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にする。

・その他法令の定める所に従う。

15. 適用法令

化審法	：特定化学物質	：該当せず
毒物劇物取締法	：毒物、劇物	：該当せず
消防法	：危険物	：該当せず
労働安全衛生法	：有機溶剤中毒予防規則	：該当せず
	：通知対象物質	：該当せず
化学物質管理促進法(PRTR 法)		：該当せず

16. その他の情報

本データーシートに記載されている情報は弊社の知り得る限りにおいて正確ですが、保証するものではありません。弊社は製品ラベル記載事項を守らない使用方法などによって受けた人的、物的損害に対して賠償責任を負いかねます。

参考文献：

1.「製品安全データシートの作成指針」(社)日本化学工業協会, 2001

2.「GHS 対応による混合物(化学物質)の MSDS 作成手法の研修テキスト」中央労働災害防止協会, 2006

3.「GHS モデル MSDS 情報」中央労働災害防止協会, 2007

4.「JIS Z7250:2005, 化学物質等安全データシート(MSDS)第１部：内容及び項目の順序」日本工業標準調査会, 2005

5.「GHS 分類結果データベース」(独)製品評価技術基盤機構, 2007

6.「Chemgold Mark II Chemical Database」Chemwatch, 2007

7.「ezCUSTOMS Pro Chemical Database」日本ケミカルデータベース(株), 2007